

「じじろ」5 Kの自殺と黒い光

Kは私とお嬢さんとの婚約を知りその後自殺をする。Kが自殺することで私の未来は黒い光に照らされる。私にとって「大切なもの」を守ろうというエゴにより黒い光に照らされることになる。

K

私

① 154 上 13 「私はそのまま二、三日過ごしました。その二、三日の間Kに対する絶えざる不安が私の胸を重くしていたのは言うまでもありません。私はただでさえなんとかしなければ、彼にすまないと思ったのです。」○「Kに対する絶えざる不安」とは何か？

② 154 下 5 「私はなんとかして、私とこの家族との間に成り立った新しい関係を、Kに知らせなければならぬ位置に立ちました。」○「新しい関係」とは何か？

③ 154 下 7 「しかし倫理的に弱点を持っていると、自分で自分を認めている私には、それがまた至難のことにように感ぜられたのです。」○「倫理的な弱点」とは何か？

④ 154 下 18 「まじめな私には、それが私の未来の信用に関するとしか思われなかったのです。結婚する前から恋人の信用を失うのは、たとい一分一厘でも、私には堪えきれない不幸のように見えました。」○「まじめ」はどういう意味で使っているのか？

⑤ 155 上 5 「要するに私は正直な道を歩くつもりで、つい足を滑らしたばかり者でした。」○「正直な道」「足を滑らした」とは何を指しているか？

⑥ 155 上 9 「私はあくまで滑ったことを隠しましたがりました。同時に、どうしても前へ出ずにはいられなかったのです。私はこの間に挟まってまた立ちすくみました。」○「前へ出る」は「はなはだしい」とか？

⑧ 156 上 7 「奥さんの前に座っていた私は、その話を聞いて胸がふさがるような苦しさを覚えまして。」○「苦しさを説明しなさい。」

正直な道……自分が叔父にされた仕打ちにより、叔父のようにはなりたくない、正直に生きたいと思っていた。
足を滑らした……

⑦ 155 下 12 「Kはこの最後の打撃を、最も落着いた驚きをもって迎えたらしいのです。」○お嬢さんと私の婚約を知ったKの態度から想像できるKの内心は？

⑨ 156 上 10 「勘定してみると奥さんがKに話をしてからもう二日余りになります。その間Kは私に対して少しも以前と異なった様子を見せなかった。私、私は全くそれに気がつかずにいたのです。」○「OKの内心はどのようなものだったと考えられるか？」

